

NPOパートナーシップ協力プログラム 事業終了報告書

団体名 NPO 法人熱海キコリーズ
代表者名 能勢 友歌

1. 事業名

熱海伊豆山お堂復旧プロジェクト

2. 事業カテゴリー

熱海令和3年7月豪雨

3. 事業期間

2021年10月14日～2022年6月30日（260日）

4. 契約金額

1,000,000円

5. 担当者名

能勢 友歌

6. 事業目的

熱海市伊豆山で発生した大規模土石流による被害で半壊したお堂を復旧し、住民が再び集える環境を整えることで、日常を取り戻す一歩とする。

7. 事業の成果

平時より伊豆山でも活動する熱海キコリーズが、伊豆山の木材を使い、伊豆山の人々の心の拠り所だったお堂を復旧したこと、被災により不安の多かった住民の方々と信頼関係を築き、安心感、そして今後の生活や復興に対する勇気を与えることができたと考える。

お堂の復旧で使用した重要な部材が、木材であった。熱海キコリーズは現状、自団体でしかできない活動として、熱海市の放置林を間伐し、森を守る活動を実施、間伐材を搬出・製材をし、熱海市へ還元する「地産地消の取り組み」を行っている。お堂の復旧で使用する部材には、伊豆山の間伐材を使用し、「熱海伊豆山の災害を熱海伊豆山の資源（木材）やメンバーで救えること」を一部であるが証明できた。お堂復旧の過程において、住民の方々に、このお堂に活用されている木材が伊豆山の木材であることを知っていただいたため、より安心してお堂の復旧完了まで見守っていただくことができた。

お堂をどのように復旧すべきかは地域住民と相談しながら決定し、お堂の内部にあった物品に関しては地域の方々が清掃・保管をしてくださった。毎週日曜日に作業していたが、必ず地域コミュニティの方たちが作業風景を見学していた。最初は信頼できる団体かどうか不安に思われているかなと思ったが徐々に、「ありがとうございます。」「ほんとうによろしくおねがいします。感謝です」などと、いろいろな差し入れと共に声がけいただいた。そのたびに、楽しみにしながら見学してくださってのだと確信することができた。

熱海キコリーズとその外部の仲間たちが住民に認知され、信頼されるようになったことで、住民の方々と一丸

となって、ニーズに沿いながら復旧活動ができた。

スケジュールに関しては、当初の計画通りにお堂の修復を進められた部分があった一方で、コロナ禍での活動であったこと、またお堂以外にも伊豆山の現場の緊急対応を行うなど流動的な部分もあったため、そのケースごとに、地域住民のニーズ第一で動けるように調整した。

皆が集うお堂を復旧し、住民同士の交流が再開できる環境を整備することで、地域住民の方々のお堂との日常を取り戻すことができた。

作業を通じて、「お堂がどう使われていたのか」「住民の方々にとってどのような存在だったか」を知ることができた。お堂は、日々の住民の方々の大切な心の支えである仏さまが祭られているとともに、数十年にもわたり、毎月欠かさず 24 日には女性の皆さんが集まり、念仏を唱えたり、法要などの行事を行っているということを知った。このお堂が地域住民の方々にとって、人生の一部でなくてはならない大切なものであると感じた。実際にお堂を毎月利用していたご婦人は「またここでお地蔵さんと仲間のみんなとお茶を飲みたいわ。だからよろしくね！」と将来の希望を語ってくれた。伊豆山土石流災害からちょうど 1 年を迎える 7 月 24 日に、完成したお堂にて、地域の女性とその仲間が大勢集まり、行事を行った。住民から感謝を伝えられ、笑顔を見ることができ、熱海キコリーズにとっても感慨深かった。この日の行事に参加をしたことで、地域住民の方々のお堂との日常を取り戻すきっかけを作れたのでは、と嬉しく思った。

観光スポットであるお堂を復旧させ、伊豆山に再び観光客を呼び込むきっかけになった。

いまはまだ、被災による警戒区域の規制線内にお堂があるため、毎月 24 日、行事に参加する女性住民は、都度、行政の特別許可を取って行事や儀式を行っている。しかし規制線の外に「一度、土石流で流されてしまったがまた戻ってきた奇跡のお地蔵さん 3 体」があり、ほかの地域住民だけではなく時折、伊豆山神社帰りの観光客もそのお地蔵さんに訪れているという話を住民から聞いている。今後の防災のために伊豆山の被災経験を他地域や後世の人々に伝える、また地域の賑わいを取り戻すためのスポットの 1 つとしてお堂を復旧することができた。

今後は、もう少しこのお地蔵さんが奇跡のお地蔵さんということをより多くの人に知っていただくために熱海キコリーズもなにかお手伝いができたらと考えている。(間伐材の地蔵キー ホルダーをつくるなど、地域住民の方々と協議中)

8. 事業種別（コンポーネント）ごとの成果

コンポーネント①

熱海キコリーズでは、一つ一つの作業を伊豆山の地蔵堂管理担当の方をはじめ、今後お堂を使っていただく方々のニーズを伺いながら作業を行った。

(具体例)

・床板と畳の割合は実際に座って使用する方々の機能性を重視しながら決定したり、ガラス戸は昔使っていたものにペンキを塗ったり修理することで修復し、再生した。

・塗料に関しては今よりも明るめの色でとご提案があり、色見本をお見せしながら決定した。

上記の過程で住民の方々から信頼していただき、絆を強めていくことができたと感じた。さらに、地域住民が未来にむけて希望を持つつ、今後のお堂での行事を非常に楽しみにしてくださっていることも感じることができた。

・床板や内部の扉や飾りなど、洗ったり修理をすれば今まで通りの使えるものは活かしながらも、土石流で破損してしまい、新しく購入して設置することが必要なもの（畳、ガラス戸、入口の柱、外壁など）は、必要最低限を丁寧に設置した。その際、伊豆山の住民の方々には、「被災前にはどのような使われ方をしていてどの機能が重要か」という部分もきちんとヒアリングすることで、コミュニケーションミスなく、もう一度使いやすいお堂の

復旧ができた。ハード面の使いやすさもさることながら、ソフト面での使いやすさも重要視しながら復旧活動を進めた。

- ・お堂の清掃に関しては、専門技術も駆使しながら、以下の作業を実施した。

● 外部の洗浄と構造体の収集

当該建物の外部は土砂の飛散による汚れが残り災害の痕跡を残していたが、手作業と高圧洗浄機を活用した洗浄作業により、当該建物正面と左側面（建物の地下部入口）の汚れは改善された。高圧洗浄機を使用しての洗浄作業は建物への損害が危惧されたが、建物への損害は無く作業ができた。損害が懸念される構造体へは手作業での作業を行った。構造体の収集として、損害があった外壁や建具について取り外しを行い洗浄、使用できる部材について保管を行った。

● 内部の洗浄と清掃

内部の天井付近まで飛散していた泥を手作業で丁寧に落とし清掃を行った。その他の建具（お地蔵様の収納庫、窓、扉）については泥を落とした後、水拭きを繰り返しながら洗浄を実施した。当該建物内部に飾られていた装飾品（朱色の掛け軸：幅約3メートル、高さ約50センチ）については、実質的な管理者 小磯氏（以後小磯氏と省略）に引き渡し、一時は浜会館へ保管されていたが、無事にお堂内へ移動も完了。

● 屋根の清掃

屋根部は経年劣化による損害が散見されるが、屋根材の張替えをする必要は今のところ確認できない為、塗装を前提とした錆を除去する作業を行った。錆や大きなほこりを除去したことにより見栄えは格段に良くなった。お堂の管理代表者の小磯氏と色味について協議し決定。お堂の屋根から作業スタッフが転落するなど、作業時の事故も懸念されたため、転落防止策として、転落防止綱の設置及びハーネスの着用した。

● 建具のペンキ塗り及び養生テープ外し

当該建物の建具について本来の色味を取り戻すべく、朱色の塗料を塗っていった。塗装した部位の養生テープを外すときも1つ1つ心を込めて丁寧に作業を行った。

● お堂管理者である、小磯さんや町内会長のみなさんとの打ち合わせ

作業を始めるにあたって、実施範囲や地域の皆様をヒアリングする打ち合わせや下見を2021年10月に複数回実施。その後作業中や作業後の打ち合わせも適宜行いながら、意向を尊重しながら作業を行った。その際は浜会館の中の大広間で行わせていただいた。

＜作業日程＞

【2021年】10月：2回（14日24日）、11月：3回（14・21・27日）、12月：2回（11・26日）

【2022年】2月：2回（21・26日）、4月：1回（30日）、5月：2回（6・18日）、6月：3回（4・11・25日）

また、作業を進める上で安全管理がより一層大切と感じ、労働災害を未然に防ぐための安全管理を徹底し安全に留意して活動を行うために、森での通常活動とは違う研修も急遽導入し作業に活かすようにした。

お堂復旧作業に際して、具体的には、高所からの転落、塗装作業時の有害物質の吸引や摂取、復旧作業中に起こりうる鋭利なものによるケガなど、複数の危険要素を確認し、一般的な救命講習ではこれらの危険要素に対応できなかったため、災害現場での復旧活動中に起こり得る怪我や事故に際し、一いち早く初期対応できるような First Aid（応急処置）の受講を急遽実施をおこなった。この実施場所も、伊豆山の浜会館という地域住民の方の憩いの場所をこの一緒にやってきた小磯さんのご厚意で貸していただき、小磯さんにも研修を見学いただいた。

■安全管理研修「ファーストエイドとCPR」

実施日：5月1日 参加者9名

講師は消防士のキコリーズメンバー1名が務めた。森での活動中、災害支援の現場、体験教育の現場など様々な

ケースを想定して、心肺蘇生法や軽症への First Aid、頸椎の保護や大量出血への対処、鋭利なものが突き刺さってしまった場合のケア、人体へ有害なものを摂取してしまった場合のケア等を学んだ。

9. 事業全体を通じて得た教訓や課題等

- お堂復旧に使用する畳の納品が業者都合により遅延、および、世界的なウッドショック（海外産木材の価格急騰）により国産材の需要が急増しており製材所の製材スケジュールが逼迫していた。そのため熱海キコリーズ用の製材が完成するタイミングが1月以降になり、その後の施工なども考慮し、事業期間を延長せざるを得なかつたことが予定外であった。その際のリソース確保が大変であったため、今後はそのような時でも、柔軟に対応できるような体制づくりをしたい。
- 災害復旧現場では、当初の計画以外でも地域住民からの突発的なニーズや優先度高いお願いなどもあるため、その声を傾聴しながらも今日の前にあるお堂に関しても作業を並行して行う必要があり、人員確保と材料確保に苦労をした。結果的には納期を調整しながらしてなんとか手分けしながらも調整できたが、災害現場初体験であったため、とても大変であった。今後はそのような緊急対応の可能性も加味しながらの計画づくりを心がけたい。

10. 協力体制の構築

- 浜会館・お堂の管理関係者：活動がスムーズにいくように、お堂の管理を行う浜会館の伊豆山住民の小磯さんはじめ、町内会長さんらと協力をし、ニーズヒアリングや役割分担などを行った。
- NPO 法人 atamista：NPO 法人 atamista から、お堂復旧のボランティアを数名、定期的に送り出していく一緒に復旧活動を実施。
- 瞳月建築工芸：建築や内装分野では熱海で数々のリノベーション物件を担当してきている、瞳月建築工芸（代表はキコリーズメンバー）とも協業をし、適材適所の人員配置を行い作業を遂行。
- レスキュー経験豊富なキコリーズメンバー：屋根での作業やロープワークが必要な作業においては、海外でのテロ事件でのレスキュー方法を最先端の地・アメリカでも学んできた熱海出身のキコリーズメンバーが取り仕切り実施。安全管理研修も臨時開催をし、安全第一で活動を行うようにした。
- 外部 NPO の OPENJAPAN / DRT の方々との初期の情報交換や交流も行った
- 社協：特別に作業をさせていただくときや工具レンタル・トラックのレンタルなどもご協力いただいた。
- 热海市役所：危機管理課の課長の方には、復旧後のお堂が月に1回イレギュラーではあるが特別に使用させていただけるよう許可取りにご協力いただいた。

11. Civic Force との協働について

Civic Force との協業により、非常に作業が全体的に円滑に迅速に進みました。特に以下の3つの点について非常に感謝しています。

- 復旧活動スタート時のサポート
 - 最初に復旧活動で現場に入るときに、必ず必要なものセットを即座にご用意いただき大変助かった。災害時の経験値の高い Civic Force さんが適切な掃除用具を一式ご用意しご提供くださったので非常にスムーズに現場に入ることができた。
- 復旧活動中の適宜のサポート
 - 途中で「屋根の修理と掃除が必要になった時」には梯子やそれに伴う道具のサポートや、伊豆山の他の災害現場で事故があった時により一層安全面を注意するための安全管理研修もサポートいただき、災害現場の必要なニーズに応じてサポートし続けてくださいました。
- 月次報告書・終了報告書のサポート

- 月次報告書・終了報告書また、変更届なども、書き方がわからなかつたりするときにいつも快く相談に乗ってくださったり、時にオンラインミーティングやお電話でのサポートをしてくださった。

上記のサポートがなければ我々はすべての災害支援業務や提出書類の提出が遂行できなかつたと思います。心の底から本当に感謝しております。